

## 地域と暮らしの視点から きたネットフォーラム2015 開催しました

11/7 会場/北海道大学フード&メディカル  
イノベーション国際拠点



持続可能な地域・暮らしを環境団体の視点から考え、「地域の底力でいのちと環境をつなぐ〜キーワードはトランジション(移行)〜」と題して開催しました。コーディネーター坂本純科さん(NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト)の、「トランジションとは、人や物のつながりを回復しながら、次の時代を自信を持ってつないでいける地域・社会をつくること」という言葉から、フォーラムがスタートしました。

基調講演は、コレクティブハウス「里山長屋」の設計者で、神奈川県で「トランジション藤野」の活動に関わる山田貴宏さん(一級建築士事務所ピオフォルム環境デザイン室代表)。人と環境をつなぐプラットフォームとしての住、ハードとしての家から、いろんな関係性の詰まった住まいへの移行が、地域の豊かさを結ぶ拠点となっていく事例などのお話をいただきました。午後は、農、エネルギー、アートといったテーマで地域づくりに取り組む団体に事例紹介をいただき、市民団体の役割、地域との連携のあり方、手法をディスカッション。NPO法人八剣山エコケータリングのワークショップでは、「持続可能」のイメージを体験できるシンプルなゲームを楽しみました。

今回は会員団体のスローフード・フレンズ北海道が中心に開催した食と農のイベント「テラ・マードレ全国大会」の札幌大会と連携し、同時開催。「環境保全」と「食」をつなげた交流の場となりました。テラ・マードレ大会長の湯浅優子さんからも「一人一人が変わっていく意識を持って、社会に発信を続けて、いろんな人たちと繋がっていくことが必要」というメッセージをいただきました。



■主催：認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク  
一般財団法人セブン・イレブン記念財団  
■共催：テラ・マードレ・ジャパン in 北海道 実行委員会



きたネットフォーラム パネルディスカッション

## 森林・山村多面的機能発揮対策 交付金の制度説明会・相談会と 報告会を開催。

11/27帯広 12/1旭川 12/2北見 2/18札幌

きたネットでは、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の事務局業務の一部を受託しています。本年度は11月・12月に、旭川・帯広・北見の道内3都市で制度説明・相談会を開催しました。また、2月には札幌で、平成27年度活動報告会「地域の森で仕事をつくろう」を開催。交付金を活用して、森林保全や森林資源活用、森林をフィールドに自然観察や野外体験等を行っている札幌市、倶知安町、枝幸町、蘭越町、旭川市、標津町の6団体から事業報告をいただきました。

本交付金は3年目を迎え、来年度も継続が決定しています。制度が年ごとに整備され使いやすくなり、市民や行政の関心も高くなってきています。これまで市民の森林保全活動は、ほとんどが無償、交通費も自前でしたが、この交付金で「地域での小さな仕事」が生まれています。各地の意見交換の場では、本制度が市民の活動が仕事につながるための基盤づくり、仕組みづくりのきっかけとなり、今後、地域で継続収入が得られる仕組みができていくことが望ましい、そのためには自治体のバックアップ、連携が必要という意見が出ていました。



11/27帯広 制度説明・相談会 2/18札幌 報告会

## 海浜美化フォーラム2016 「森・川・海〜つながる自然環境」 (NPO法人北海道海浜美化をすすめる会)



会員団体「NPO法人北海道海浜美化をすすめる会」のフォーラムに、きたネットの川口弘高副理事長がコーディネーターとして登壇しました。北海道環境財団の小林三樹理事長の講演「豊平川あつてのまち 札幌」では、川とともに歩む札幌の歴史や、温泉・鉱山等の潜在リスク対策などのお話を聞く事ができました。後半のパネルディスカッションでは、海と森を守る立場のパネリストから、森・川・海の繋がりが、海の環境や生態系に大きな影響を与えること、漁業と森の関わり、森や都市から流出した流木や生活ごみが海岸漂着物となることなどがあげられ、私たちの日々の暮らしに密接に関わる問題であることを再認識しました。

きたネット会員

## KITA-NET MEMBERS



## NPO法人 道東動物・自然研究所

野生動物の救護を通して、自然環境の保護に取り組む

1985年にミニ動物園を開園したところ傷病野生動物の持ち込みが続き、1989年に治療とケアを行う道東野生動物保護センターを設立。当時は野生動物の治し方を教える大学がなかったため、1993年からは学生実習を受け入れました。2005年にNPO法人に改組し、「夏季野生動物保護(臨床獣医学・看護学)セミナー」として担い手の養成に取り組んできました。獣医・環境分野の学生を中心に、獣医師などの一般の方を受け入れ、7泊8日の合宿形式で実施。保護中の動物を「教材」として、餌やりなどで生態を知り、安全な支え方や強制給餌などの看護実習を行いました。また、鳥獣個体の保護は彼らが棲む生態系全体の保護と「車の両輪である」との観点から、自然観察会を重視。大学に単位認定される内容として好評でした。本事業は2015年で終了。22年間で941名が受講し、受講者は国内外で活躍しています。今後も引き続き、道東の豊かな自然の恵みを未来永劫守り伝えるために、道東野生動物保護センターの運営と子ども向けの保護動物見学会、環境講演会などに力を入れていく予定です。

【電話】0153-72-1333  
【HP】<http://morita-ah.com/npo-animal&naturehtml.html>



## 北海道高山植物保護ネット

高山帯の植物と環境を守る、団体のネットワーク

1998年に、当時深刻だった高山植物の盗掘を防ぐために発足した「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」が前身です。2010年に、高山帯が抱えるさまざまな問題に取り組むため、現団体名に改称しました。植物などの専門家からなる委員10名と、自然保護団体や山岳団体など約35団体で構成しています。現在は、北海道の貴重な高山植物の保護に取り組むネットワークとして活動しています。高山植物は、盗掘や踏み荒らし、高山帯のオーバーユース(利用者の集中)や外来植物の侵入、エゾシカの増加、地球温暖化などの要因によって、生息域の減少や絶滅が進んでいます。こうした現状を食い止めて保護するため、構成団体がそれぞれの担当地域で、見回りパトロールやごみ拾い、侵入防止ロープの設置、外来植物の抜き取りなどを行い、ネットワーク内で情報を共有し、対策の立案に役立てています。また、毎年1回、一般市民対象の「市民フォーラム」を開催して、取組みの状況や高山植物・山岳環境に関する調査研究を紹介しています。

【電話】011-892-5306(さっぽろ自然調査館内)  
【HP】<http://www.cho.co.jp/hap-net/>

きたネットチョイス

## KITA-NET CHOISE

Book



コープ未来の森づくり基金  
モリ・イク別冊  
「本のこワイ! あぶない?  
~野山の安全安心ノート~」

野遊びやキャンプなど、北海道の自然の中での時間を安全に楽しむための知識をまとめたハンドブックです。服装チェック、スズメバチ・マダニ、ヒゲマ、エキノコックス、植物などについて、あぶない理由と対策法を紹介。絵と写真入りの解説が、子どもにもわかりやすいと好評です。A5判カラー 12P、無料。

【企画・編集】  
山本牧(NPO法人もりねつと北海道)  
新岡薫(エトボン社)・宮本尚(きたネット)  
檜山和弘(woody house)  
【発行元・お問合わせ】  
コープ未来の森づくり基金(電話)011-671-5651

※3月下旬から、コープさっぽろのHPでPDFデータをダウンロードできるようになります。札幌市中央図書館のHPでも電子書籍版を閲覧できます。

Event

きたネット主・共催イベントです。  
詳細はお問合わせください

- ・3/22(火) 市民のエネルギーチェンジ研究会 in 下川(視察14時30分〜、研究会17時〜)、集合：下川町総合福祉センター「ハビネス」
- ・4/1(金)〜11/30(水) ラブアース・クリーンアップ in 北海道2016、ごみ拾い活動の登録開始!ラブアースHPからどうぞ。
- ・4/16(土) ラブアース「オープニング!ごみ拾い」、場所：札幌市中心部
- ・5/21(土) きたネット通常総会&きたネットセミナー、会場：札幌市教育文化会館

●きたネットのネットワークに参加しませんか。会員は以下の2種類です。  
1.正会員(市民環境活動団体・個人)年会費5000円(1口)〜総会における議決権を有します。  
2-1賛助会員(企業・団体)年会費10,000円(1口)〜総会における議決権は有りません。  
2-2賛助会員(個人)年会費2,000円(1口)〜総会における議決権は有りません。  
●会員になると...各種連携事業の実施、広報協力、  
会員間の交流・活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、  
きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問合わせください。